海外
研究動向

ヨーロッパにおける東南アジア地域研究の現在

──EURO SEAS 2015 に参加報告して

2015年8月11日から14日にかけてオーストリアのウィーン大学で開催されたヨーロッパ東南アジア学会研究大会に参加して報告した。この学会は考古学、経済学、文化人類学、言語学、歴史学、文学、芸術、宗教学などの多分野の研究者から構成されている。これまでヨーロッパでは、周知のとおりオランダのライデン大学などを中心として、インドネシアに関する研究が植民地支配の時代より多く蓄積されている。しかし、ヨーロッパ東南アジア学会そのものの歴史はまだ新しく、1992 年に設立されたばかりである。1995 年にライデン大学において最初の研究大会が開催された。2015 年研究大会は第 7 回目である。参加者はヨーロッパ各地だけではなく、世界中から集まり盛大に行われた。また、東南アジア地域からヨーロッパのさまざまな大学に留学している大学院生たちも多く参加していた。この大会は、ドイツ語圏で最大規模の大学だと言われる創立 650 年を迎えた伝統あるウィーン大学とオーストリア科学アカデミーにおいて開催された。

研究大会は 15 のテーマに 80 のパネル、合計 407 の報告が行われた。報告対象の国・地域別でみると、複数地域の比較 134、インドネシア 125、フィリピン 32、タイ 31、ベトナム 26、マレーシア 20、ラオス 18、ミャンマー 18、カンボジア 11、東チモール 4、パプアニューギニア 3、シンガポール 3 という内訳であった。

研究大会では、モノや宗教など、現在、文化人類学において注目を集めているテーマに加えて、人の移動やインターネットを介在させた複数の地域に散在する人びとを結ぶ社会関係の変容に関する報告が目立った。ここでは、世界有数の移住動労者の送り出し国であるフィリピンの移住と移動の事例に関連する研究、さらに、近年注目されているインターネットを介在して形成される社会関係に関する研究動向に注目する。

筆者も報告を行ったパネル「アジア地域内におけるフィリピン人移民の現状」では、1970 年以降、フィリピン人の海外への移住と移動が急増し、移住先においてフィリピン人たちが社会空間を形成していることについて議論が行われた。これらの社会空間は、移住者たちが組織した自助グループ、受け入れ国の NGO などの支援団体、フィリピン大使館の支援活動などが連携して、構築されている。たとえば、ディナ・デリアス（南洋理工大学）は、政治や結社活動が規制されているシンガポールに焦点を当て、コンピュータープログラマーや、企業の従業員として働くフィリピン人たちが結成するフィリピン人グループが、家事労働者などの生活をサポートする役割を果たしていると分析した。このようなフィリピン人グループは、フィリピン大使館やフィリピンにある移住労働者支援 NGO などと直接的に関わることにより、グローバルなフィリピン人ネットワークを構築しつつあることを明らかにした。

風格あるキャンパスの中で活発な議論が行われた（2015 年 8 月 12 日、ウィーン大学）。

論者たちは、パネルでのそれぞれの報告を、1990 年代以降のフィリピン人移住者たちの新しい動きをまとめることによって、世界各地のフィリピン人移住者が自助組織を作りながら移住移動を基盤とするグローバルな空間を形成していることを明確にしたと評価した。一方、複数の地域でフィリピン人移住者が展開している自助グループの組織化と社会関係を形成するという実践を、どのような枠組みで比較研究するのかについて再検討しなければならないという指摘もなされた。

次に着目するのは、パネル「東南アジアにおけるインターネット上のイスラーム・インターフェイス」である。これはオーストリア科学アカデミー内のプロジェクト研究のメンバーによって組織された。パネルでは、インドネシアの人びとによるイスラームの信仰実践におけるソーシャルメディアとコミュニケーション技術の日常的な利用について議論された。インターネット・ツールが、様々な地域に散在する人びとの信仰に関する定期的な情報交換や、行事の告知に利用され、若者世代の新たな活動と関係の拡大などにつながっている。オンラインとオフラインレベルで形成される信仰実践と共有、それによる地域的な枠組みにとらわれない社会関係の拡大が注目された。たとえば、海外の非イスラーム地域で出稼ぎ労働を行っている女性が、オンライン上でイスラーム指導者に個人的な生活上の問題に関わる相談を行い、指導者がイスラーム法学上の解釈に基づいた応答をするという事例が報告された。

文・写真　永田貴聖

国立民族学博物館機関研究員。専門は文化人類学、フィリピン人移民研究。日本・韓国におけるフィリピン人移民の社会関係形成について研究している。著書に『トランスナショナル・フィリピン人の民族誌』（ナカニシヤ出版 2011 年）、論文に「『韓国』を消費するだけではない日本人の存在──政治的な日韓関係を超える関係についての試論」『生存学』Vol.9（生活書院 2016 年）など多数。